

平成25年度草の根・人間の安全保障無償資金協力

チョンボク・カンボジア日本友好保健センター 完成式典開催

12月5日（金）、草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「保健センター整備を通じたコンボンスプー州母子保健改善計画」（供与額限度額：95,801米ドル）により供与された保健センターの完成式典が、コンボンスプー州チョンボク・カンボジア日本友好保健センターで開催されました。右式典には、エーン・フオット保健省長官、オウ・ソム・ウォン州知事、アオ・ヴァンテン州保健局長、エステレ・ロッシュ「子供と発展」カンボジア事務所長、日本国大使館の與那嶺書記官が出席して祝辞を述べるとともに、その他地域住民約400人が参列しました。

本案件は、コンボンスプー州チョンボク郡での保健センター建設、同州内保健センター4箇所での産前・産後待機室建設、及び同州内保健センター7箇所での産科トレーニング実施を通じ、地域住民に対する医療サービスの質・アクセスの向上を図ることを目的として、2014年3月に贈与契約が結ばれました。

式典では、まず司会者が来賓を紹介した後、アオ・ヴァンテン州保健局長、エステレ・ロッシュ「子供と発展」カンボジア事務所長によるスピーチが行われました。続いて與那嶺書記官がスピーチを行い、「日本政府はカンボジアを支援する上で保健分野に重点を置いており、カンボジア政府の国家政策に沿ってカンボジアの住民が必要な医療サービスを受けられるよう人材育成や機材支援等を行ってきた。本案件で供与した保健センターにより、多くの地域住民が医療サービスを受けられるようになることを望み、また本案件がカンボジアと日本のさらなる友好関係促進に寄与することを願う。」と述べました。そしてアオ・ヴァンテン州保健局長のスピーチに続いて、エーン・フオット保健省長官がスピーチを行い、「日本政府と「子供の発展」による支援のもと、本案件の保健センターが建設されたことに大変感謝している。新たな保健センターが、迅速で効果の高い保健サービスを地域住民に提供することで、人々の生活が改善されると見込んでいる。これは、カンボジアの国家政策やミレニアム開発目標の目指すところに合致している。」と述べました。その後、来賓によるリボンカット及び病院見学が行われ、式典は無事終了しました。



①式典の様子



②式典に参加する地域住民約400名



③與那嶺書記官のスピーチ



④エーン・フオット保健省長官のスピーチ



⑤感謝状贈呈



⑥與那嶺書記官によるリボンカッティング



⑦保健センター内見学



⑧関係者との集合写真



⑨本案件で供与した保健センター



⑩本案件で供与した雨水貯水タンク



⑪本案件で供与したトイレ



⑫本案件で供与した医療廃棄物焼却炉